

潮騒通信

潮騒ジョブトレーニングセンター

Drugs and Alcohol Addiction Rehabilitation Center

一部 100円

# どっこい生きてます!



3月3日のひな祭り(桃の節句)に先立ち、神栖市にある潮騒JTC女性ハウス「ルミの家」の主に新人メンバーらが2月22日、桜川市真壁地区で開催されている「真壁のひな祭り～和の風第十四章～」を見学しました。時間の制約から1時間半ほどの滞在でしたが、古い土蔵や見世蔵、格式ある門が残る落ち着いた街並みを散策しながら、商家や民家の入り口に飾られた江戸・明治・大正・昭和の風情ある雛人形を楽しく見ることができました(9ページに記事)。

2016

2



## メディアの成熟度を示す 清原・覚醒剤事件



元プロ野球選手の清原・薬物事件では、今回もメディアによる洪水のような過熱報道が目立ちました。「またか…」「もううんざり…」というのが、依存症の回復支援施設を手掛ける当事者としての私の正直な感想です。かつてプロ野球界で一世を風靡し、子供達の夢やあこがれの存在だった名選手が、あろうことか暴力団の資金源となっている覚醒剤に手を染め、ヤク中の犯罪者として世間を騒がせるという、栄光からの転落人生は、少し前の「のりピー」や「ASKA」のケースと同じく、メディアにとっては世間の覗き見趣味を刺激する格好の“ニュース”のようです。警察に逮捕され、本人も覚醒剤取締法違反(所持・使用)の容疑を認めているようですから、裁判で有罪となるのは確実です。恐らく絞切型の執行猶予付き判決が言い渡されるでしょうが、一連のメディア報道からも分かるように彼もまた重症の薬物依存症者です。ごまめの歯ざりだとしても、私たちは一貫して「薬物依存症者に必要なのは罰よりも適切な治療と回復の場だ」と訴え続けています。でも、ひとたび有名人による薬物事件が起ると、メディアは「どうしようもない罪悪人」というバッシング報道一色に染まり、病気という本質的な視点が抜け落ちてしまいます。そしてお決まりのように人格批判にまで及び、裁判を受ける前にメディアによって「社会的に葬られる」ことになります。

そんな中、今回私が目にしたTVのニュース番組だけでも幾つかのダルクが登場し、「もしかして薬物事件報道の流れが変わるかな？」と淡い期待を抱かせました。しかし、結果的には「依存症の怖さ」を強調する補強材にダルクが使われたにすぎず、メディア報道の主調音は相変わらず倫理・道徳的な視線からのバッシングと、人格批判に終始しているように思えました。しかし、私たちは有名人であれ名もない一般人であれ、その本人が「薬物と出合ったことが不幸の始まり」と考えます。決して人格が悪かったから、とは考えません。人格まで否定してしまったら依存症の回復はあり得ないからです。「罪を憎んで人を憎まず」ではありませんが、何度でも失敗を認め、その存在を肯定する深い人間観がなければ、依存症の回復は成り立たないのです。その意味でダルクや潮騒JTCには、精神科病院や矯正施設よりも清原の依存症を回復させるだけの根源的な力があると、私は信じています。

もちろん清原が運よくダルクや潮騒JTCに繋がったとしても、覚醒剤に対して自分の無力を認め、回復のレールに乗れるという保障はありません。それ以前に、芸能界ではよくあるように「俺が清原を立ち直らせ、覚醒剤を絶ち切ってやる」などと、薬物依存症について無理解な、全く見当はずれのお節介屋が現れるのを私は危惧します。通算20年も刑務所に“お勤め”した私ですから、あまり説得力はありませんが、薬物事件報道の在り方はその国のメディアの成熟度を示す物差しに思えます。日本にも依存症ケアの先進国である米国のような「ドラッグコート」(薬物事犯者を刑務所に送らずに社会内で回復と更生を支援する薬物専門裁判所)が早くできて欲しいものです。(センター長 栗原 豊)



## 入寮者らが「福を呼ぶ」豆まわりの景品をゲット

潮騒 JTC では 2 月 3 日夜、鹿嶋市宮中のデイケアセンターに近い降魔山護国院（真言宗智山派寺院）の「節分祭豆まき式」に今年も参加しました。ゲストや役員らと一緒に、寄進者の栗原センター長も特設会場の壇上から福豆やスナック菓子、カップ麺などを撒き、下では大勢の檀家や市民に混じって潮騒の仲間たちが「福」を呼ぶ景品をたくさんゲットしていました。

節分は、豆を撒いて家の中にたまった邪気や厄を鬼に見立てて追い払う儀式で、追儺（ついな）とも呼ばれます。以前は神社仏閣だけでなく、各家庭でも家族全員で「福は内、鬼は外!」の掛け声で豆を撒きましたが、最近はその声もあまり聞こえません。商業的な狙いもあるのでしょうが、節分に恵方巻を食べる関西地方の習慣が全国化しています。時代の変化はあるにせよ、潮騒 JTC では、薬物やアルコール、ギャンブル問題に絡む過去のトラブルが尾を引いて家族と疎遠になり、関係を絶たれている入寮者が多いことから、古くから受け継がれていた季節の行事を大事にしています。

鹿嶋市での節分といえば鹿嶋神宮が有名ですが、護国院の節分祭の豆まきも市民に人気があります。毎回、元プ

ロ野球選手やボクシングの元世界チャンピオンが参加し、豪華景品がそろうことでは引けをとりません。当日は午後 6 時から本堂で祈祷があり、その後に豆まきをする参加者が登壇。境内の特設舞台の上から神職や年男、年女らが「鬼は外、福は内」の掛け声に合わせて豆をまき、これに続いて、ゲストや寄進者の皆さんが壇上から豆代わりにたくさんの景品をまきました。

今年もゲストはお馴染みの俳優の大沢樹生さん、元プロボクサーの竹原慎二さんや畑山隆則さん、元プロ野球選手の斉藤明雄さんらの常連で、有名人らが登場すると境内から大きな歓声が上がりました。栗原施設長も他の寄進者らと一緒に檀上から、掛け声に合わせて即席ラーメンなどの景品を次々に撒きました。会場で待ち受けていた潮騒 JTC の入寮者らは飛んでくる景品の「福」をゲットしようと競って拾い合い、獲得した景品を手を満足そうな表情でした。因みに今回から段ボールを用意してのキャッチは、危険なために禁止となりました。

【降魔山護国院】真言宗智山派の名刹。鹿嶋神宮の参道の途中にあり、創建は 708 年。北関東三十六地藏尊霊場第二十九番札所。創建当時は鹿嶋神宮の境内にある護摩所だった。本尊の不動明王は成田山新勝寺と兄弟不動。鹿嶋大宮司の意向で 1674 年に現在地に遷座した。





## 百寿亭も節分の豆まきイベント

### 一般高齢者と依存症者を受け入れ、 職業訓練の場としても機能

高齢者向けの小規模デイサービス事業に取り組む潮騒 JTC の関連施設「百寿亭」(加勢誠代表)でも2月3日午後、鹿嶋市宮中の同施設で利用者の皆さんと職員スタッフによる節分豆まきイベントが開かれました。この日は、2人の男性職員が全身タイツ姿で鬼の面を被って豆を投げ合い、掛け合い漫才よろしく巧みなトークで利用者の皆さんの笑いを誘っていました。また、各地で演奏依頼の多い鹿島灘太鼓のメンバー職員が篠笛(横笛)の美しい音色を響かせたほか、潮騒エイサーに参加している職員メンバーからも人気の数曲を演奏・演舞、アンコールに応えるなどして利用者の皆さんのひとときを楽しませました。

百寿亭は、潮騒 JTC でも高齢者問題が深刻な現状を受け、「行き場のない高齢の依存症者にも適切な介護の場を」との願いから、栗原センターの肝いりで昨年3月にオープンしました。当初は高齢者介護の知識や経験、ノウハウがなかっただけに専門家を含めいろいろな人たちの支援を頂きましたが、お陰様でここに来て自立した運営に明るい見通しが出てきました。試行錯誤しながらも1周年を目前に、営業努力が実ってなんとか利用者の増員

が見込まれるようになり、赤字体質から脱却できる水準にまで運営が軌道に乗りつつあります。そのため今後は、施設内をさらに改造・改修して地域のニーズに応えられるよう定員の増員を図っていく考えです。

その一方で、百寿亭は潮騒 JTC のアディクションビレッジ(依存症村構想)に位置付けられており、今後さらに職員が現場経験を積んで深刻さを増す高齢依存症者の受け皿施設となるのはもちろん、ある程度回復が進んだ入居者が社会復帰を目指して、介護ヘルパーの資格取得を目標に職業訓練の場としても機能しています。現在、地域の高齢者のほかにデイケアの入居者ら数名が利用しており、依存症と介護認定の調和など困難な課題はありますが、潮騒の「終の棲家」をフォローする重要な役割が期待されています。





## 女性ハウス「るみの家」でも節分豆まき

神栖市にある潮騒女性ハウス「ルミの家」でも2月3日、入寮中の女性メンバーらが童心に帰り、みんなで楽しく豆まきをしました。以下は、その感想ですー。

あみ  
感想

2月3日、きょうは節分の日です。久しぶり、本当に久しぶりに豆まきをして家族のことを思い出しました。私は昔の記憶がありませんが、幼い頃に家族団欒で豆まきしたことがあったなあ。と少し寂しくなったけど、ここで仲間としての豆まきは、私にとっていい思い出になりました。仲間って一緒にいると、すごく嬉しいな、って感じました。笑顔でいられる幸せって本当に温かいものだなと思っています。ルミの家に来て本当に良かった!

みく  
感想

私が「ルミの家」に来て2度目の節分を迎えましたが、みんなでまく豆まき、ルミさんが用意してくれた恵方巻をかぶりつき、「ああこんな行事もあるんだな」と思いました。季節ごとにルミさんが用意してくれる行事や祭事イベントは子供の頃できなかったで、ここでみんなでできるのはすごく新鮮で楽しい思い出になります。ルミさんの心遣いに感謝です。

れいこ  
感想

豆まきは小さい頃、好きな行事のひとつでした。大人になってからは、あまりしていませんが、久しぶりに「ルミの家」で行いました。鬼の役を

やりましたが、とても楽しかったです。

みっちゃん  
感想

家で「身内だけ」の豆まきはとても楽しかった。童心に戻り幼い日を思い出し、懐かしく感じました。鬼の皆さん、お疲れ様。それと恵方巻、とても美味しくいただきました。

しず  
感想

豆まきは毎年、家族でしていた年中行事でしたが、今年は初めて家族を離れての豆まきでした。鬼のお面を被り、仲間たちと笑顔で参加できました。恵方巻を頬張り、楽しい節分となりました。来年は(依存症を克服して)息子と豆をまき、福を呼び込み、(依存症という)鬼を退治できたらと思います。

みのる  
感想

子供の頃を思い出します。施設の先生が鬼になり、子供ながらに精一杯の力で豆を投げたなあ…。今日の豆まきは、写真のアングルを気にしながら、できるだけ拾い易いようにまきました。20代の時って、夜のガラガラした店で少し雰囲気を楽しんだような節分だったと思います。けど、一番思い出に残っているのは刑務所で、食事の時に配食される豆だった気がします。一人独居で、ポリポリ食べて、鬼は外、福は内なんてできないし、すぐに頬張り込みながら食事の時間内で食べました。でも私は今はもう、一人ぼっちで豆を食べなくてもいい仲間に出会い、我ながら密かに喜んでいます。来年もみんなで豆まきをしたいです。

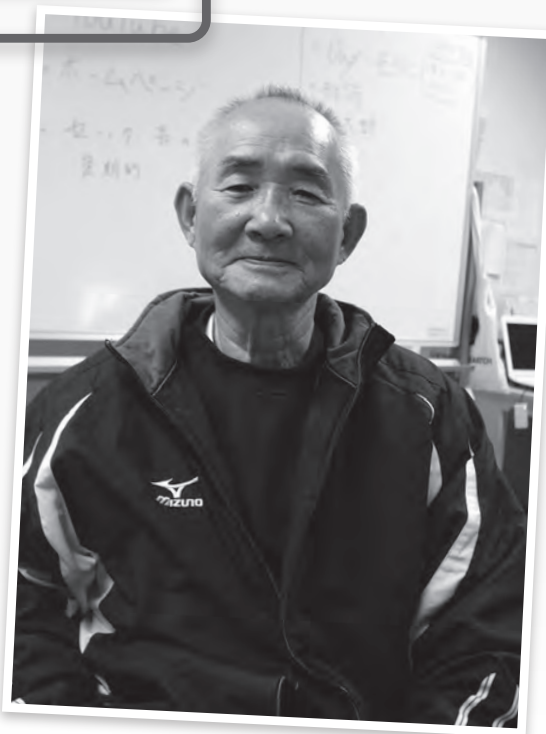


## 入寮者ケーススタディー

その1

### 81歳のヤク中 サカの場合 ⑤

決意では  
やめられないのが  
依存症



高齢か若輩かに関係なく、依存症の回復には自分に正直になることが必要になる。そこからスピリチュアルな成長が始まる。81歳のサカは前回に続き、「自分にとって都合のいい」過去を話してくれた。それは自分の病気や抱える問題と「正直」に向き合っている姿とは違って見えた。過去への郷愁と未練が色濃く残り、それに引きずられている。だから今回ようやく潮騒に繋がったものの、ごく短期間でスベってしまった。もし刑務所で生きながらえて出所し、次回も運よく潮騒に繋がったら、もう少し辛抱してミーティングで正直に自分を吐き出して欲しいものだ。その時こそサカは「依存症の回復に年齢は関係ない」ことを示す存在となるだろう。(広報部)



在日コリアン2世として数奇な運命に翻弄された81歳のヤク中・サカだが、見方によっては戦後の薬物(乱用・汚染)問題の貴重な生き証人ともいえる。戦後間もなくのヒロボン中毒を象徴する「ボン中」に始まり、依存性が極めて強く一度手を出したら身も心もボロボロになるという覚醒剤の隠語そのものの「シャブ中」人生一筋に歩んだ。依存歴は半世紀を超えて65年にも及ぶにもかかわらず、骨の髄までシャブリ尽くされることはなかった。サカは「これだけ長く使っていると普通の人は後遺症が出てくる

のだろうが、私に限っては出なかった」と話した。

「じゃあ上手く使ってきたのか?」と問うと、サカは「何とも言えないね。ただ、付き合いのあったシャブ仲間とはとくに死んだ。私がこうして生きているのを考えると、まあ上手く使ってきた部類だろう」と述べた。サカが覚醒剤を“うまく使えた”のは、彼にとっては都合のいい条件や状況が偶然に重なったことが影響しているようだ。1951年に覚醒剤取締法が制定されるまで今ほどは規制が厳しくなかったことや、もっぱら自分で適量を“程よく使う”単純自己使用だったことが挙げられる。

### 知って楽しく生きるのも人生なんや

「シャブのお陰で女もたくさんつくり、華やかな生活ができて周囲から羨ましがられた。芸能人とも派手に付き合い、カネに困ったことはなかった」。やはり一度脳にインプットされた“快樂”の記憶は消えない。「今は規制が強いから、昔のようにシャブをうまくは使えない。後ろからお巡りが飛んで来るのを警戒して、こわごわ使うから問題なんだ。私が知ってる限りヤクザの偉いさん(直参)でシャブをやってない人なんていない。みんなやってる。それだけシャブはいいもんなんや。一度やったらやめられない。シャブを知らないのも人生やけど、知って楽しく生きるのも人生なんや」。これがサカの歪んだシャブ哲学だ。

サカによれば、覚醒剤事犯は1970年代初め頃までは罰金だけで済んでいたが、ヤクザの周辺や風俗業界から一般社会にも覚醒剤汚染が広がり、国も本腰を入れて規制強化に乗り出してから、一気に警察の取り締まりが厳しくなったという。「罰金刑が4回、刑務所(懲役刑)は6回、通算すると20年近くを塙の中で暮らした。最初に懲役刑になったのは、昭和50年頃だったかな? 担当した警察官が“法律が厳しくなったけど、こんなんでも懲役に行かしてもいいんだろうか…”と同情してくれた」と過去には牧歌的な時代もあった。

サカには自分のシャブ歴に「事件と言えるものは一つもなかった」という妙なプライドがある。ヤクザの真似事をしていた一時期を除けば、ほとんど営利目的ではなかった。懲役も長いので3年ほど。今回は前刑分が加算されて一番長くなったが、どうやら後遺症が出る前に一定の周期でタイミングよく? 捕まり、刑務所での断薬期間がサカを再び覚醒剤を使える健康体に戻す、という皮肉な流れだったらしい。だからやめられなかったし、本人も一度もやめようと思わなかったという。

### 覚醒剤が向こうから追っかけてきた

サカは昭和29年に20歳で結婚、相手は幼馴染の在日の女性で子供は4人いるが、グレずに真っ直ぐ育った。だからサカは亡くなった妻には頭が上がらない。「私は外で好き勝手にシャブをやり続けたが、自分が遊ぶ女以外には勧めなかった。もちろん女房もシャブ漬けにはしなかったし、子供がいたので刺青も入れなかった。いつも女房と子供がブレーキ役になっていた。後に子供は私から離れたが、もし80歳を過ぎて残りの人生をクスリなしで歩めたなら、両親や女房の墓参りをしたい。そして子供達とも和解したい」と神妙に語った。

前述したようにサカが覚醒剤をやめたいと思ったのは今回が初めて。「仮釈がほしかったからだった」と明かした。彼は今まで、出所してから素面でいたことは一度もない。保護会にいても使っていたという。「どこに行っても覚醒剤が向こうから追っかけてきた。今回も潮騒なんてやめとけ。迎えに行ったらやるから待ってろ」とシャブ仲間に使われたが、あえて帰住地に潮騒を選んだ。「潮騒ならやめられる」と本気で思ったからだ。老齢となった今のサカには経済的な支えがないだけに、「世知辛い中で衣食住が保障される潮騒は、私にとっては天国。親の墓参りをしたら潮騒に戻り、ここを終の棲家としたい」。そう決意したサカだが、再び塙の中に戻ることに決めた。決意ではやめられない病氣、それが薬物依存症の正体だ。

## どっこい 私も生きてます

### 第七回

## チハルの回復記

### 入学式の日集団リンチを受け 人生観が変わる

小学5年の時だったと思うが、私はテレビで知ったシンナー遊びのマネごとをするようになった。すると陶酔の中での幻覚なのか、見た事のない小人が現れ、母も知らない母方の死んだ祖父の話などを聴いた。その不思議な体験から、幻覚の小人への会いたさに4回ぐらいシンナー遊びのマネごとをした。やがて姿が出てこなくなったので、そのうちにシンナー遊びはやめてしまった。やがて卒業式を迎えた。私は小5からお受験組にも加わり、某有名私立中学に合格したが、我が家の事情で入学は叶わず、結局は地元の公立中学に進学することになった。

私は希望を膨らませて中学の入学式を待ちわびた。しかし入学式当日に、これも神(ハイパーパワー?)の計画なのか、私の人生を決定づける重大な事件が起きた。無事に儀式そのものの入学式が終わり、親も含めた集合写真を撮り終わると、私は仲の良い友達に呼び出された。彼に連れて行かれたのは校内の暗い場所で、そこで私は突然暴行を受けた。15、6人はいたと思う。悪質なリンチだった。理由は入学時に、既製品ではない大きなダボダボの制服を着ていたという、なんとも理不尽な理由からだった。私には全く訳が分からず、ただリンチに耐えるしかなかった。その時私の中で、それまで自分を支えていた「何か」が音をたてて崩れた。私にとって目の前の現実、理不尽で言葉の通じない冷酷そのものの狂気へと変わった。

これをきっかけに私の狂気の世界が始まった。翌日、私は登校と同時に私を呼び出した、友人だったはずの男を捕まえ、隠し持っていたフォークで左の目をくり貫いた。もがき苦しむ相手に対して、私は心に秘めた怒りを最高潮にまで高めた。どれだけの時間が過ぎたのか、それすら分からない程に暴行を加えた。この事件で私は学校側から登校禁止処分を受けた。私はホッとした。逆に「こっちから願い下げだ」とばかりに、自ら登校拒否することを決めた。そしてマセタ従姉妹たちと“遊び”にはまっていた。この体験で私は完全に人間不信に陥った。先輩とか年上だとかいう、自分にとって都合の悪いものは全て退治しようと決めたのだった。(次号に続く)



## 第2回「藤岡に繋がらなかったことがターニングポイントに」

# ユタカ vs トム 対談



前回のおさらいですが、栗原センター長は60歳で前橋刑務所を出所したわけですが、ひときわアルコールと覚醒剤依存症の根が深かっただけに、すんなりとはダルクに繋がらなかった。入寮するはずだった藤岡ダルク(日本ダルク アウェイキングハウス)の門が閉ざされ、警察ともひともんちゃくあった。でも、先行く仲間(先輩回復者)の姪御さんの支えを得ながら曲折を経て鹿島ダルクに落ち着いた。そこで地道に回復に励み、一段落した頃にフォーラムがあり、初めてお二人は会うことができた。(司会進行・広報部)

### ■ 群馬に勢いのある女性4人組がいた

**ユタカ** だから私は姪に頭が上がらない。大袈裟ではなく私には命の恩人。生まれ変わるきっかけを作ってくれた。「仲間が仲間を救う」としても、叔父と姪の関係だから接し方は難しかったと思う。姪が先行く仲間でなかったら、私は出所して数日のうちに警察に捕まり、またもや刑務所に逆戻りしていた。辛抱強く、諦めずに私を支えてくれた姪には感謝の言葉しかありません。

**トム** 姪御さんに関してなんですけど、当時、群馬の自助グループに勢いのあるアディクトの女性達がいたんです。4人組で、とても仲が良かった。自助グループの間では、とてもいい回復をしていると評判の4人組でした。その噂は僕の耳にも届いていて、それこそ物おじしないです。自由にものを言う。まだまだ男性社会だったダルクでは煙たがられていた部分もありましたが、彼女達はどんどん自由に意見を言っていた。その中の一人がユタカさんの姪御さんで、僕も知己を得ていました。彼女から「私の叔父にアルコールと薬物のとても病気の重い依存症者

がいるんです」と聞かされていました。確かに鹿島ダルクのフォーラムで、いざ実際に会ってみると姪御さんから聞かされていた印象通りでしたね。

**ユタカ** ようやく鹿島ダルクに自分の居場所を見つけ出して、あのころは水を得た魚のように元気でしたね。まあ、今も私は年の割には元気だ、とみんなに言われていますが…。あの頃は訳も分からずに夢中で回復プログラムに励んでいました。でも繋がって3年に満たない時期でしたから、まだまだ自我の固まりが抜け切れずにもいました。それが後に施設のリーダーとの対立や確執につながった要因の一つだったと、今では冷静に私の側から反省しています。とにかく私は未熟でした。

### ■ 長野か山梨ダルクあたりに行ったかも

——でも、着実に回復の道を歩んでいたのは確かですよ。やはり、そのルールに乗れるように、キューピット役を果たしてくれた身内の姪御さんの存在は大きいですね。そこも何か縁があって繋がっていたんですね。

**トム** やはりハイヤーパワーだと思うんですね。もし、あの時にユタカさんがすんなり藤岡に行っていたら、潮騒の今はなかった訳ですから…。それこそ回復の流れで長野か山梨ダルクあたりに行くことになったかもしれないんです。向こう側(日本ダルク系列)の計画(ハイヤーパワー)の中で繋がっていったらいいから。でも、そうならユタカさんは鹿島ダルクは繋がらなかった訳で、その後のダイナミックな活躍もなかった。だから、あれが刑務所生活を終えての、ユタカさんの回復にとっての、初めてのターニングポイントだったと私は考えています。

**ユタカ** そうですね、私の回復人生も違っていったものに



なっていたと思います。回復のレールに乗ったとしても、こじんまりした形に取まって、破天荒な私の力が出せなかったかもしれない。それ以上に、回復に向かったかどうかね。やはり藤岡じゃなくて鹿島ダルクに繋がったことが、私にとっての大きなターニングポイントだったと私も思います。

## ■ 近藤さんの器からは零れ落ちる存在

——そこには回復に向かって努力する姿勢とセンター長の謙虚さを感じますね。

**ユタカ** 面はゆいですね。買いかぶり過ぎ。そんなに力はありませんよ。ただ、有難い事に、こんな私を支えてくれる良い人達に恵まれたことだけは確かです。だからこそ私が力を発揮できる環境を整えられた。そこはハイヤーパワーの計画だと考えています。

**トム** 近藤(恒夫日本ダルク代表、アパリ理事長)さんも人をよく見てるけど、初めからユタカさんが自分の方に顔を向けて来たら、どうでしょうか。近藤さんにとっては、自分の器の中からは零れ落ちる存在じゃないでしょうか、ユタカさんは。あの時に藤岡に嵌ったら、長野や山梨ダルクの人になっちゃた可能性だってあったと思うから、そうだったら近藤さんの(手のひらの)中で動く人になっちゃったかもしれない。まあ、それも回復の一つの流れでしょうから、そこでそれなりには活躍したとしても、他に抜きんでる力強い突破力みたいなものを活かすまでにはいかなかったと思うんですね。そういう流れじゃなくて、とりえずユタカさんが鹿島ダルクの人になれたのは、藤岡ダルクのお陰。だから世間の常識と違って「逆説がその人を生かす」というダルクのモットーからすれば、藤岡はユタカさんの大恩人！(笑)

——で、その後センター長は鹿島ダルクで順調に回復のレールに乗っていった訳ですよ。

**ユタカ** 今振り返ると7度目の出所の時に、もうこれ以上はないという「どん底」を、自分の人生で初めて自覚できた。今は段階的な「底つき論」という考え方もあるようだけど、やはり回復に向けては「底つき」が不可欠だね。もうこれ以下はない、落ちる所まで落ちたな、と考えられたことが大きかった。その時に姪がダルクに橋渡しをしてくれたという、あのタイミング。やはり人生にはその時しかないタイミングというのがあるんだね。そうして鹿島ダルクでは、なんとか順調に回復プログラムに取り組んだけど、仲間には自分よりも大変な人たちが多かった。それが良かったと思う。でも、その後に私の人生の方向を変える「独立問題」が起きる訳なんです。(次号に続く)

# 風情ある街並みと 雛人形飾り

女性ハウス「ルミの家」メンバーが  
真壁のひな祭りを見学

女性の祭りといえば3月3日の雛祭りです。各家々で雛人形を飾り、幸せと健やかな成長を祈ります。「桃の節句」として古くから受け継がれている日本の伝統的な行事です。もともとは人形が身代わりになって邪気を祓うと信じられていたことから、流し雛の儀式が起源となっているそうです。今では仲の良い女の子たちが集まり、飾られた雛人形を見ながら、ひなあられやちらし寿司を食べたり、“あかりをつけましょ、ぼんぼりに〜♪”の、有名な「うれしいひなまつり」を歌ったりして過ごすのが一般的なようです。

真壁のひな祭りは、「寒い中来てくれた人をもてなそう」と14年前に始まりました。真壁地区は歴史ある街並みと古い見世蔵、土蔵、門などが軒を連ね、約100棟が国の登録文化財に登録され、重要伝統的建造物群保存地区にも選定されています。ひな祭りは2月4日～3月3日までの1カ月間、各家々にある雛人形を好きなスタイルで玄関先に飾るシンプルなイベントです。期間中は、江戸から平成までの幅広い時代の雛人形や手作りの吊るし雛、御影石の雛人形などが飾られています。

潮騒JTC女性ハウス「ルミの家」では一昨年に続き、同イベントを見学のために片道約2時間半をかけて車で訪れました。この日は時間の制約から1時間半程度の滞在でしたが、今回はまだ就労支援プログラムに嵌っていない、比較的新しい入寮メンバーら4人が参加。終日曇りがちの天候でしたが、結構人出で賑わいを見せて街中に活気が伺えました。参加者らは「各家々に伝わる雛人形が大事に保管され、時代を超えて受け継がれている」「その時代によって顔つきが変わっている」などと驚いていました。女性達は、飾る家が増えている吊るし雛人形にも興味を抱いていました。





# 受刑者からの手紙

## 2年後の出所を私のターニングポイントにしたい

私は今回覚醒剤での逮捕で家族、兄弟、友人…全てを失いました。今回で6度目の逮捕、5度目の懲役です。同じことで何度も逮捕されてりゃあ、誰だって相手しなくなりますよね。今回は逮捕される3日前に実家に帰っていて、その時すぐ上の実兄から「兄弟の縁を切ってくれ!」と告げられました。そんなこともあって、面白くないという気持ちを持ったままクスリ(覚醒剤)でもやろうと思って新宿の友人の所に遊びに行き、3日間クスリをやり続けました。3日後、1度部屋に帰ろうと思って駅に向かう途中で職務質問されて逮捕です。

今思うと馬鹿げてますが、クスリのやり過ぎで頭がおかしかったのですね。普通だったら、昼間っから覚せい剤をキメて新宿なんてウロウロしませんよね。今思い返すとゾッとします。こんな事、ここでは話す人もいませんし、ただ虚しくなるばかりです。潮騒ジョブに行けばこんな話を解ってくれる人もいるのでは—なんて切ない期待しちゃいます。チハルさんからの便りの中に、懲役にいると気付かされることが多々あると書いてありましたが、その通りです。たくさんありすぎて、疲れてしまいますが…(笑)。

潮騒通信の中でマーシー(田代まさし氏)が「刑務所という所は罪を改心させてくれる場所でも、薬物依存を解決してくれる場所でもなかった」と述懐してましたが、まさしくその通りだと自分も思います。私と同じ依存症で苦しめる人もたくさんいるんだろうなあ…と思うと、少し気が楽になります。そう思うと、普段は気楽にやっていますが、自分の中ではかなり精神的にやられているんじゃないか?と思います。人に見捨てられるというのは結構辛いんですね。こんなどうしようもない奴でも、潮騒では面倒見てくれるのですかね…(泣)。ちょっと前まであんなに好きでやってた覚せい剤が、今はただただ憎いだけです。

今回の懲役の中で変わったかなと思えるのは、もう覚せい剤をやりたいとは思わないことです。今までだと、出たらずぐやってやると思ってたのに、今回はそう思えないんですよ。これは“しんぼ”なのかな(笑)。このままの勢いで絶対やめるんだ—と思ってます。この気持ちのまま出所して潮騒に行き、仲間たちと一緒に絶対に覚せい剤をやめるんだ—このままの気持ちを維持し、潮騒にお世話になりたいと思っています。どうか宜しくお願い致します。私みたいな人が他にいるのかどうかは解りませんが、似たような境遇の人はいるような気がします。チハルさんからの便りの中にもありましたが、「この懲役の中での苦しさや辛さが、自分を成長させてくれるんだ」と思いながら、残刑2年と2カ月ガンバります。

(東京都 T・S)

## 薬物を断つためなら 如何なる努力をもしていく

温かきお手紙をいただきありがとうございます。私は自分の意志の弱さにより、これまで私が大切にしてきましたものを傷つけてしまいました。薬物を断つためであるなら如何なる努力をもしていく覚悟でおります。入寮費等々他いささかな不安もありますが、入寮も視野に入れ、一考の上叶うならば、共に学ばせていただくことも考えております。また諸々相談も兼ね筆をとらせていただきます。

(神奈川県 W・K)

## 自分をマネジメントできるのは 自分しかない

潮騒パンフレット届きました。ありがとうございます。ます10周年記念フォーラム、おめでとうございます。潮騒太鼓、幅広く活動していき、練習での努力があるからこそ、たくさんの方々の前で笑顔でやりぬく姿はとても素晴らしいことだと思います。何事にも一所懸命に取り組む姿、私も見習い、前へ前へと進んで行かなくてははいけないと、自信をもっと強く持たないという気持ちになりました。何かを開くことが分かれば本当に進むべき道が見つかり、その先には未来が必ず見つかる私は信じております。自分をマネジメントできるのは自分しかないと思うので、潮騒の皆様には素晴らしい人生をつかんで欲しいと心より祈り申し上げます。

(岐阜県 T・A)



受刑者の方々の手紙を読んでいると、各種メディアが「これでもか…」とばかりに取り上げる清原・覚醒剤事件の視点が、実はとても表層的で視点がズレているなあ、と痛感させられます。潮騒 JTC に寄せられる手紙は、依存症という病気の根の深さと回復の難しさを語って余りあるものばかりです。そこには、メディアが描く清原のダークな人間像から抜け落ちる、依存症の正体がそれ以上でも以下でもない珠玉の言葉で綴られています。(潮)

## 私は今年も刑務所生活の中で自分探しです

穏やかな天候に恵まれて2016年が明けました。残念ながら今年も隔離された時間の中で生活して行きますが、センター長をはじめ、皆様方の助けを励みにし、明るく元気に頑張りたいと思っています。トシヤさん、お手紙ありがとうございました。温かい心をいただき感謝です。これから先も仲良くしていただけるようお願いします。正月二日から仕事をしています。食事は一日三回、年中無休ですから、炊場は交代で休みを取るわけですが、まだその生活に慣れません。正月休みも6連休だったのですが、平常と変わらない感じです。通常と休みの時の仕事の流れが多少違うので若干バタバタしたところがあったりしましたが、今は平穏な日々に戻りました。

刑期の半分か過ぎて、今思うことは、過去が遠く感じてしまうということでしょうか。昨日のことでも思い出すのに時間がかかってしまい、細かいことは忘れてしまっていることも多々あります。認知症を疑うほどではないと思いますが、判断力や記憶の低下は進んでいるように思います。ただ私の場合刑務所の生活が長いので、社会での思い出が少なく、淋しく感じる人が多いのです。昔話に花が咲くような時があったり、会話の種が豊富にある人がとてもうらやましく思います。振り返って楽しく思い出すようなことがあまりないので、遠く感じるのか定かではありませんが、私が歩いた道は貧しくみすばらしいものです。過去に捕らわれているわけではなく、暗い現実満足するものでもないのですが、現状は何も変わらず過ぎています。私の軌跡が平凡なものであり、四季折々の思い出が人並みであったならば、感受性も豊かに、人生の幸福をつかんでいたのではないのでしょうか。

新年早々、夢のない話ですいません。私は今年も刑務所生活の中で自分探しです。しかし、潮騒の皆様は、11年目に突入して、より以上の発展に力を注がれることと思います。シュンさんをはじめとする作業隊や、一年一年拡大していく農業隊など、思い描くビジョンは止まらず、大きく翼を広げていかれることでしょう。こんな私でも少しでも手伝いができれば、嬉しく思います。依存症であっても、未来はあります。光り輝くものとするために地道に一步一步進んで行くことは、とても楽しいことだと思います。苦しかったり辛かったり転んだりつまずいたりしても、仲間と共に歩いていければ、笑顔が消えることはないと思いますので、本年もよろしくお願いします。(茨城県 H・N)

## この世は生きている人全てに平等である

潮騒通信を送っていただきありがとうございます。通信で日々皆さんの活動を知り、こんな所で腐ってはいけないし、今できることを一つ一つ学び、自分のものにし、自分の財産を増やし、出所後に生きたい。そんな思いで去年いろんな教育を受け、自分なりに真剣に考え、答えを探し続けています。例えば、人は生き直すことはできないのに、「今日からは死んだつもりで生まれ変わったつもりで生きていく」とよく言いますが、たとえ社会的地位に恵まれなくとも心豊かな生活が送れるように努力し、人間の心にある善と邪悪を押さえる心、忍耐力こそ自分を磨く根本の心ではないのでしょうか。どんな小さなことでも、社会のため他人のために尽くす心を養っていく理性と教養のバランスを保ち、思いやりのある人間になりたいものです。人は不幸を味わうほど他人の不幸や痛みに敏感になります。人の苦しみや痛みが分かってこそ、他人を好きになり愛することができるのではないのでしょうか。

所内の教育の先生の話で、この世は生きている人全てに平等である、というご指摘をいただきました。よく私たちは不公平だと口にするが、実は公平なんだと思う。楽に稼ごうという私たちの行動をちゃんと神様は見ている。その分与えられたこの現実だから、いいことも悪いこともずっとは続かない。いいことがあった後には悪いこと、悪いことがあった後にはいいこと、いいことと悪いことを神様は平等に与えてくれているのです。いいことがあった後に悪いことがあるだろうという覚悟、悪いことがあった後にはいいことがあるだろうという期待をしてもいいと思うのです。現在「どん底」にいるけど、その分期待と希望をもってもいいと私は思う。社会ではたくさんの小さい幸せや大きな幸せが待っている。だから当たり前のことを当たり前と言わず、日々当たり前のことに幸せを感じ、心から感謝して、これから生きていこうと思います。

(東京都 O・T)

# しおさい俳壇

2月のお題

節 分

選者 桐本石見

わが俳句人生の歩み・No.26

センター長 栗原 豊

やたらと厳しい規則が多い刑務所での入浴

かつて受刑中に姪に送った手紙を通して引き続き、刑務所内での生活を記しますー。

初風呂や／背(せな)に真っ赤な／金太郎 初風呂の／湯気にシャボンの／隣る人

正月三日は入浴剤バスクリンの入った風呂に入りました。風呂は 50～60 人が入れる大浴場です。裸になると三分の一位の人が何らかの彫り物をしているので華やかです。腕に彼女の名前だけの人から全身首から手足首まで彫り物を入れている人まで様々です。

もう 10 数年前の体験なのでだいぶ記憶も色褪せてきたが、今思い出しても殺伐とした刑務所での生活の中で食事に次ぐ楽しみといえば入浴だろうと思う。受刑者の多くが楽しみにしている入浴だが、当然ながら塀の中では入浴にも自由はない。「入浴始め!」から「入浴終了!」まで、例によって多くの制限がある。風呂から上がって着衣と整列までの時間は、なんとたったの 15 分。自宅でなら誰に気兼ねすることなく長湯もできるが、刑務所ではゆっくりと湯船に浸かっている暇はない。この間に洗髪、洗体、髭剃りをして、烏の行水よろしく湯船に浸かり終えなければならない。多くの刑務所では浴場にタイマーが設置しており、ブザーが鳴り残り時間を知らせる仕組みだ。もちろん私語は一切禁止。使えるお湯の量は洗面器 16 杯までと決められている。大きな浴場の隅では刑務官が仁王立ちで、入浴中の受刑者をしっかり監視している。

刑務所の浴場は街中にある銭湯を思い浮かべてもらえばいい。一度に大人数が入浴し、シャワーも数十人が使えるようになっている。でも、一人一人の間隔が狭く、隣の人にぶつかってしまうこともよくある。しかも毎日入れない。夏場には汗をかくので毎日入りたいが、1 週間のうち 4 日で冬場になると 3 日しか入れない。毎日数百人が入浴するから水道代やガス代だけでもバカにならないのは分かるが…。(この項つづく)

豆撒きの  
思ひ出父の  
逃げる鬼

特選句

しま

節分は年に四回あるが立春の前夜の二月三日頃のが春を待つ思いから一番盛大に行われるし、日本では平安時代から宮中で始り江戸時代に一般化して今では観光商業的思いから有名人を迎えて賑やかに行う神社もある。家庭では父が鬼になって子供が豆を撒いたりする、その思い出の詠で私も山国の里が懐かしく戦死の父や祖父を思う句です。

豆撒きや  
鬼の役目は  
いつも俺

特選句

こば

家庭でも会社でも華やかな芸人の舞台でも裏方は必要でむしろ裏方の方が人数も多い。豆撒きの鬼は豆に当たって痛いかもしれないがその演技が子や観客を喜ばせ場を盛り上げる。俳諧の少しの哀れを込めた句です。

節分の  
豆が幼児の  
手をこぼる

特選句

おの

節分の豆撒きは追儼とも言い室町時代は桃の枝で行った、また豆は生命力から魔目、豆に通じ魔を滅する意から豆を撒く様になったとも。幼児が兄や親に真似て豆撒きをしたいが小さな手から零れたのだ、微笑ましく可愛い景を彷彿する句です。



秀逸句

# 今月の秀逸句

福は内豆をつまみに鬼ころし

シゲ

「鬼ころし」は酒の銘で超辛口と言はれ、昔は鬼も飲まない程の不味い酒だったが酒蔵がその名を逆手に辛口の酒に改良し今では秋田、新潟、茨城、島根県などにあり、石見神楽の私の里にも石見鬼ころしがある。豆撒きの豆での祝い酒かも。面白い句です。

列島に居場所無き日ぞ鬼やらひ

ゆたか

鬼やらひは季節の変わり目の邪気を祓う意から古来から各地で行なう、神仏に祈るしか頼る物なかった時代の名残りでもある。鬼は必ずしも恐ろしく悪者ばかりではないが節分の夜は日本列島から追放される、これも又人の世の面白さでもある。俳諧の句です。

センター長豆撒きやらふ護国院

ひろ

降魔山護国院は鹿嶋市にある寺で七〇六年に鹿島神宮内に創建一六七四年今の地に移設、真言宗智山派で本尊は成田山新勝寺の不動明王と兄弟仏。その寺でセンター長が鬼やらいの行事に参加されたのだ、厳かな思いの句です。

豆撒きの鬼が近づき子の号泣

しず

テレビで「なまはげ」などに大泣きする幼子を見かけますが子は本能的に暗がりや鬼など怖いと思う、産声も大きいのが元気の証でもあると言はれる。「こうきゅう」に少し可哀相な思いの句です。

鬼やらひ豆目に当たり母怒る

もと

子供の豆撒きの手がそれたのか、それとも子達が面白がつてはしゃいで豆が目当たったのかも。元気な子供の声が彷彿せる句で明るい家庭を思う。

豆撒きの残りし豆は鳥の餌さ

みく

家庭で撒く豆は、後の部屋掃除に困るので、少しにして外に多く撒くが、それでも残る。食べるのも子供は多いが、大人は儀礼ほど。次の朝庭などに撒いてやると小鳥の餌さになる。実感の句です。

豆撒くや隣り気にして声小さく

オノ

以前にピアノ殺人事件などあったが、都会や団地などでは隣人の声や楽器の音も時には騒音となる、近代文明は飛行機、電車、自動車など発明するが利便と共に騒音もある、豆撒きも隣りを気にする。実感の俳諧の句です。

## 佳作

童心に帰りて叫ぶ鬼は外

れいこ

豆撒くや雨の音して春が来る

わか

豆撒いて己の福を願ひたる

みのる

今時は豆の代わりに菓子を撒く

ひろ

豆撒きだ昔の様に鬼は外

たかこ

豆撒きの済んでそろそろ梅の花

みく

豆撒きの後の掃除の大変だ

なあな

鬼やらひスポーツ選手福投げる

ゆたか

大変よ年の数だけ豆を食べ

あべ

どっこい

私も生きてます～我が回復記～

「マサヤの回復記」

第5回  
最終回

## 貴重な体験だった “たった1日の逃避行”

昨年11月、カスミグループ主宰のイベント「＜私の企画＞応援します」の前日準備でのトラブルが続けます。故郷のつくば市で絶望的な状況に陥った私は、ひととき卑小感に囚われ、「自分は人間として最低な存在だ」「もうどうなってもいい」と自暴自棄な感情に襲われました。「もう自分はどこにも居場所がなくなってしまった…。そう考えた時に、なぜか潮騒 JTC の仲間達の顔が次々に脳裏に浮かびました。気がつくと、自分は半ば無意識に仲間の一人に電話をしていました。

でも、躓き掛けたアディクトの悲しい性なのか、その段階になっても仲間に「助けてください!」とは素直に言えなかったのです。それどころか、意に反して「施設を出て行くので、これから荷物を取りに行きます」と意固地になっている自分がいました。この期に及んでも、偽りの自分は歪んだプライドを捨てきれず、居場所のない自分の現実を素直に認められなかったのです。

でも、本当は自分の気持ちの中には重たい後悔がありました。今まで潮騒でやってきたこと、クリーンタイムの蓄積、仲間から寄せられた自分への厚い信頼…。これらを一瞬にして失う事にはもの凄く抵抗や後悔がありました。だから最後のところでは「せめて酒だけは飲まないぞ」という気持ちが揺るぎなく残っていたのだと思います。

冷静に考えてみると、私は最初から潮騒 JTC に戻りたかったのかもしれませんが。だからこそ最後は自分のスポンサー（相談相手）に電話で話し、迎えに来てもらうことができました。何とか潮騒 JTC との繋がりを維持できたのです。歪んだプライドなどは最初から捨てておけば良かったのかもしれませんが。すんでのところで、私は仲間に救われたのでした。私は今回の出来事で、2つの事を学ぶことができました。1つは中途半端に社会に飛び出せば必ず厳しい現実と直面するということ、2つ目は施設（＝潮騒）は SOS を出せば必ず受け入れてくれる、ということです。ダルクは「何度でも失敗を認める」とは言っても、無条件での再入寮の受け入れのケースはそう多くはありません。その点、潮騒 JTC は厳しい条件を求めず、やる気があれば受け入れてくれます。アディクトは私のように試練に試されながら、回復の道を歩む宿命を課せられています。これからも幾度となく自分を試されながら、回復に向かっての試練をくぐり抜ける事で、アディクトは肉体的かつ霊的に少しずつ成長していくのだと、今回の“たった1日の逃避行”を通して思い知りました。(終わり)

※マサヤは先頃、自己都合により自主退寮しましたが、仲間への貴重なメッセージを残してくれました。感謝です。(潮)

## 2月のバースデー

くり

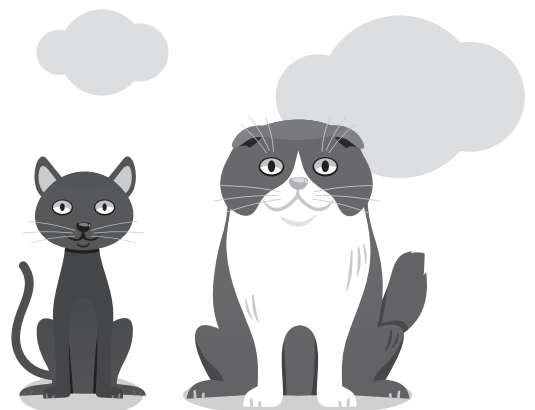


結婚したいです。

やすお



今日一日





**2月**の行事予定

- 3日 護国院豆まき  
 14・20日 秋元病院メッセージ  
 15日 新宿とまりぎ  
 アルコール問題相談業務  
 28日 潮騒家族会  
 関係修復協会研究会講演  
 (東京・国立市)

**3月**の行事予定

- 2日 NPO 法人会合参加  
 5日 茨城県  
 アディクションフォーラム  
 13・19日 秋元病院メッセージ  
 22日 新宿とまりぎ  
 アルコール問題相談業務  
 27日 潮騒家族会

## 編集後記

今回の清原覚醒剤事件に限らず、芸能・スポーツ界などの有名人による薬物事件は、格好のニュースとしてメディアでひとときわ扇情的に報道される。なぜ、こうもつこくメディア(特にテレビのワイドショー)で取り上げられるのだろうか。本号で栗原センター長も指摘しているように、かつて頂点に君臨し栄光に輝いていた者が社会の落伍者へと転落するストーリーは、人々のマイナス感情を大いに刺激するのかもしれない。とりわけ社会規範で厳しく指弾される「ダメ。ゼッタイ。」の違法薬物に魅入られて犯罪に手を染めたとなれば、メッキが剥けたとして安易に人格批判に向かい、なおさら話題は増幅される。清原が「国民の期待を裏切った」とばかりに連日激しいバッシングの嵐にさらされる背景には、普段は押さえられている私たちの本音や鬱屈した感情を一時的に解放してくれる代償作用のような役割を果たすからではないか? 犯罪行為自体は単純な覚醒剤の自己使用なのに、司法側からは「アリの一穴」を危惧し、有名人だけに影響が大きいとして社会防衛上も見過ごせない、となるのだろう。これを機に暴力団の密売ルートを押さえ、一気に壊滅を目指したいとの狙いも分かる。捜査は全力投球でお願いしたいが、やはり本質は病気である。これまで清原に巻き込まれた身内や周囲もある意味で被害者と言えるが、あくまで事件の被害者は清原自身であり、加害者も彼である。この不思議な矛盾に満ちた犯罪を、規範を旨とする司法の言葉は本質的に裁くことができるのだろうか。極論すれば、違法薬物を使っただけの自傷行為の事件の意味を、どうすれば私たちは感情的ではなく、冷静に自分たちの言葉で捉え直すことができるのだろうか。少なくともメディアに「飯の種」として消費し尽くされることを私たちの社会が是認し続ける限りは、この先も薬物事件の本質は見えないだろうと思う。(市)

## 献金・献品を頂いた方 (1月15日現在)

・大友 和子 様      ・高田 武義 様      ・山下 佳子 様

今月も献金・献品をいただきました。心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。おかげさまで潮騒 JTC は、回復のためのプログラムを実践することができておりますことをご報告いたします。今後ともご支援くださいますよう、なにとぞ宜しくお願い申し上げます。

※その他匿名の皆様からも献品・献金をいただきました。ありがとうございました。

※発送作業簡略化のため、振込取扱票は全員の方に同封させていただいております。どうぞご理解のほどをお願いします。

## 潮騒通信 どっこい生きてます! 2015年2号

## Contents

- P② メディアの成熟度を示す清原・覚醒剤事件  
 P③ 福はうち! 鬼はそと!  
 護国院の豆まき  
 ④ 百寿亭も節分の豆まきイベント  
 ⑤ 女性ハウス「ルミの家」でも節分豆まき  
 P⑥ 入寮者ケーススタディー その1 81歳のヤク中、サカの場合 ①  
 P⑦ どっこい私も生きてます 第七回チハル回復記  
 P⑧ ユタカ VS トム 対談  
 第2回「藤岡に繋がらなかったことがターニングポイントに」  
 P⑨ 風情ある街並みと雛人形飾り  
 P⑩ 受刑者からの手紙  
 P⑫ しおさい俳壇「節分」  
 P⑭ どっこい私も生きてます「マサヤの回復記」第4回

## ■ 編集・発行:

特定非営利活動法人  
 潮騒ジョブトレーニングセンター(本部)  
 〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱 34号  
 〒314-0006 茨城県鹿嶋市宮津 210-10  
 TEL:0299-77-9099 FAX:0299-77-9091

潮騒リカバリーホーム(中施設)  
 〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱 56号  
 〒311-2213 茨城県鹿嶋市中 2773-16  
 TEL:0299-69-9099 FAX:0299-69-9098

潮騒スリークオーターハウス鉢田  
 〒311-2113 茨城県鉢田市上幡木 1113-39

E-メール [k.s-darc@orange.plala.or.jp](mailto:k.s-darc@orange.plala.or.jp)

ホームページ <http://shiosaidarc.com/>





